

令和3年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	森林バイオマスエネルギー等利用推進事業
事業主体 (連絡先)	NPO法人いいだ自然エネルギーネット山法師 090-7705-9025(原)
事業区分	(5)環境保全、景観形成に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	397,260 円 (うち支援金: 303,000 円)

事業内容

- ①里山の間伐による木質バイオマスの集積と活用
間伐作業を12月から開始し、「木の駅ひさかた」に集積した。また、不必要となった木の伐採依頼を受けこれも集積し、薪や木工品として利用できるよう加工作業を進めた。
- ②必要となる設備等の購入と林業作業講習会の開催
効率的な作業に必要な設備を購入するとともに、安全な林業作業のための講習会を開催した。これに地域の方の参加も呼び掛けた。
- ③地域と協働した活動の展開
行政や地域の方々に作業やイベントへの参加・参画を呼びかけ、「親子で森遊び、地域の森を育てよう」を開催した。



【林業作業研修会】

【目標・ねらい】

- ①木質バイオマスの熱エネルギー利用の促進によるCO2の削減
- ②プラスチック製の日用品の木質化によるプラゴミの削減
- ③住民参画の取り組みを通じたCO2削減の合意形成

事業効果

- ①地域内の3か所の森林から広葉樹を伐りだし、薪ストーブ及び炭の原材料を確保できた。これを加工して地域内外の薪ストーブ利用者や茶道愛好家に供給することでCO2の削減を図ることができる。
- ②上記の広葉樹の一部と依頼による栗林から伐りだした栗巨木が確保でき、テーブル等の様々な木工製品を供給することで、プラスチック製の日用品の木質化を図ることができる。
- ③飯田市下久堅自治振興センター、下久堅まちづくり委員及び公民館と協議する中で、ドングリの苗づくりを公民館事業として実施でき、これを通してCO2削減の身近な活動を発信することができたと同時に、次年度以降の協力関係も築けた。

※自己評価【A】

【理由】

- ①地域住民や行政との継続的な協力関係を築ける基礎ができた。
- ②予定外の栗の巨木が入手できた。
- ③会員以外の森林作業を行っている住民も参加した林業作業研修ができた。

今後の取り組み

- ①木質バイオマスの熱エネルギー利用の促進によるCO2の削減
今後とも薪ストーブ愛好家が増えたことやSDGsの考え方が全国的に周知されることから、薪や炭の需要は増すものと予想でき、林業作業研修会で得た知識・技術をフルに活用して地域の里山から供給できる木質バイオマスの量の拡大に取り組んでいく。
- ②プラスチック製の日用品の木質化によるプラゴミの削減
1月から稼働させたウェブ上のショップ販売を活性化するためのマーケティング活動を工夫するとともに、品ぞろえにも努め、供給量を増すことでプラゴミの削減につなげていく。
- ③住民参画の取り組みを通じたCO2削減の合意形成
この間の取り組みで築くことができた行政や地域住民との協力関係を活かし、地域活動としてのCO2削減やそのための里山整備の活動を働きかけていく。特に、小中学校の学有林が活用されていないので、学校教育の中で 森林整備に取り組めるよう働きかけていきたい。